

Capo. 3 1-2IL(D)

道

D E_n A₁ D A₂ D E_n A₂ DB_n G A₁ F_n
少しのほり気味のまっすぐな道B_n G A₂ D
その向こうには何も見えるものなくてB_n G A₂ F_n
今は舗装された単道になってるけどB_n G A₂ D
自分の中の印象 乾いた土の道D E_n A₂ D
道の他には目に映らなD G A₂ D
だけど確かにある周りの風景D E_n A₂ D
今日の前に三角の形D G A₂ D
明るく光って心から離れたB_n F_n G F_n
どこに続くのかわからな、けれどB_n F_n G F_n B_n A₂
これから進んでいこうとする道

1-マル

夏の早朝のひとすじの道

遠くを見渡すと右に曲がっている

少し見ただけでは何もない道でも

じっくり見ることで小石や轍^{わだち}のあと

ずっと今までここに至るまで

「遍歴の果て」とはうまく言ったものか

遠くの空が少し明るく

どこに向かう道が心から離れない

どこに続くのかわからな、けれど

これから歩いていこうとする道